



2月 ちとせだより

教育現場での体罰や、家庭での子どもへの虐待が大きな問題となっています。子どもを、思い通りに動かすために、大人は様々な方法を用いますが、それは権威や威厳によってであったり、暴力という手段で恐怖を与えたりして他者を支配する場合があります。しかし、このような状況の中で支配される子どもは、大人の利益や名声、満足のための手段でしかなく、子ども自身の成長に繋がる状況とは言い難いものです。また、そのような行為は子どもの心を豊かに育てるはずはなく、そのような支配を受けながらも子どもたちは自分の感情を押し殺し、またその恐れや恨みを心に秘めて、その時が過ぎ去るのをじっと耐えているかも知れません。確かに、子育てや子どもの教育は思い通りにならない経験の連続で、どうすれば良いのかと悩んでしまうでしょう。親の言うことは聞かない、親の期待する姿は見せてくれないのが現実でしょう。しかし、大人や親が子どもに対して出来ること、そして子どもの成長に必要なことは意外と限られているのではないのでしょうか。

子どもは本来、様々なことに好奇心を示し、飽きることなく遊ぶのが子どもであり、その遊ぶ意欲が将来の生きる意欲にも繋がるものであるはずです。他者に対する好奇心も同様で、興味や思考が似た仲間をそれぞれが見事に幼稚園の中でも見つけていきます。また、興味や関心が似ているので、物の取り合いになったり、意見がぶつかったりして、喧嘩ということになる場合もあります。そうして片方が泣き出してしまっても、二人の仲が悪くなるのかというとそうではなくて、またすぐに一緒に遊び始めるのです。このように、泣かされたり、泣かしたりしながら子どもは他者との付き合い方を学ぶと同時に、その子ども自身もたくましく育っていくのです。このように、子どもには、自ら成長していくために力が備わっており、その力を発揮させることが大切であって、大人や親が、子どもを自分の思い通り、期待どおりに育てよう、失敗をさせたくない、悲しい思いをさせたくないと思うところから子育てや教育は間違っていくような気がします。

幼稚園ではこの時期、子どもたちが互いに名前を呼び合う姿がよく見られます。自分たちで見つけた遊びを友だちと一緒に遊ぶのが本当に楽しいと実感している子どもたちです。この幼児期に人との様々な関わりや、共に過ごすことの喜びを知らなければ、人間に対する基本的な信頼というものも持つことは難しく、将来様々な個性を持った人との関わり方もまた身につかないでしょう。現代社会では、子どもたちにとっては与えられる課題が多すぎて、毎日の生活がお稽古事で埋まり、子どもたちは受身中心の生活になり過ぎていく現状があるようにも思います。そんな中で、友だちとうまく付き合えず、生きる喜びを知らず、引きこもってしまう若者や、少しの失敗や叱責に耐えられない若者が増えていくのではないのでしょうか。

大人が大人として充実した毎日を過ごし、子どもが子どもらしく過ごすことが認められた家庭や社会の中でこそ、子どもは成長することを忘れないでいたいと思います。

年主題 「あふれる愛 小さきものとともに」

2月主題 「なかまと心あわせて」

聖句 “おのおのの部分は分に応じて働いて体を成長させ、自ら愛によって造り上げられてゆくのです。”

(エフェソの信徒への手紙4章：16節)